

素晴らしい太東祭2部（文化発表会）に心がふるえました！

一人ひとりの声は、世界でその人だけのもの。一人ひとり違う声が集まり、重なって生まれる合唱は「奇跡」だと思います。そんな合唱を全校で取り組めたことは何より嬉しいことでした。9月30日まで延長された緊急事態宣言が解除されてからわずかな期間での合唱練習。あわせて感染症対策を講じることが必要でしたから、マスク着用、隣との距離の確保なども重なり、合唱そのものの取組が厳しい状況でした。「うまくいかないこともあるだろう。難しくとも今年は合唱コンクールができるだけでうれしい」という、思い通りにできないことへの言い訳を私自身が考えていたように思います。ところが、生徒の皆さんは違いました。自分たちが選んだ合唱曲をより美しくするために、歌詞に込められた思いをより深く表現するためにリーダー中心に歌ってみては話し合い、話し合っては歌うことを何度も何度も繰り返していました。決して弱音を吐かず高みを目指す健気さは、子どもたち同士が励まし合い、支え合っている姿となって表れていたと思います。

合唱コンクール当日の体育館には、各クラスののびやかな歌声と美しいハーモニーが満ちていました。合唱のバックには、イメージ画（右絵）が投影され、合唱に彩りを添えて合唱を盛り上げていました。特に、3年生の「太東の合唱コンクールを後輩に引き継いでみせる」という強くあたたかい思いにあふれた合唱には合唱コンクールまでに見せてくれた一生懸命な姿が重なり感動しました。「すばらしい。そしてありがとう」その言葉に尽きます。このような姿を見せてくれた生徒の皆さんを誇らしく思いました。

また、美術部や美術科の作品、俳句や短歌、各学年の進路学習の成果、家庭科のレポートなどたくさん展示され、まるで美術館のように感じ、充実した時間を過ごせました。保護者の皆様には学年別の合唱コンクール参観や時間制限のある展示見学などにも関わらずご理解とご協力をいただいたことに感謝いたします。

合唱コンクール当日の体育館には、各クラスののびやかな歌声と美しいハーモニーが満ちていました。合唱のバックには、イメージ画（右絵）が投影され、合唱に彩りを添えて合唱を盛り上げていました。特に、3年生の「太東の合唱コンクールを後輩に引き継いでみせる」という強くあたたかい思いにあふれた合唱には合唱コンクールまでに見せてくれた一生懸命な姿が重なり感動しました。「すばらしい。そしてありがとう」その言葉に尽きます。このような姿を見せてくれた生徒の皆さんを誇らしく思いました。

また、美術部や美術科の作品、俳句や短歌、各学年の進路学習の成果、家庭科のレポートなどたくさん展示され、まるで美術館のように感じ、充実した時間を過ごせました。保護者の皆様には学年別の合唱コンクール参観や時間制限のある展示見学などにも関わらずご理解とご協力をいただいたことに感謝いたします。

今だからこそ、人とのかわり方を振り返ってみよう

合唱コンクールですばらしい合唱を創り上げるために、きっと生徒の皆さんはたくさんの意見を交わし合ったり、思いを述べ合ったりしたことでしょう。そのときには「みんなに（相手に）思いを伝えるにはどのように言えばいいのか。どんな言葉にしようか」など、伝える「相手」のことをしっかりと考えていたと思います。うまく伝わって「わかってくれた」、思うようにいかず「なぜわかってこないのか。どう言えばよかったのか」など感じたはずですが、そのような一つ一つの経験が、自分を成長させるとても大切なことです。

ただ、決してやってはいけないことがあります。それは相手の心や体を傷つけること。自分では、コミュニケーションをとろうと思って発した言葉でも、気持ちを盛り上げようと思ったり周囲を明るくしようと思ったりした言葉でも、相手がいやだと感じれば、それはれっきとした「いじめ」です。いじめのつもりはなくても、からかいや冷やかさは「いじめ」です。悪口や無視も「いじめ」です。クラスのつながりを感じた今だからこそ、自分の発した言葉や起こした行動を今一度振り返ってみてほしいです。常に私たちは、自分の周りの人すべてに「思いやり」と「親切」のあふれる温かな心と言葉を浴びせていくことが、自分と自分の周りの幸せにつながると思っていますから。

